

2020 年度学校スローガン 元気よくチャレンジする

日立市立大沼小学校

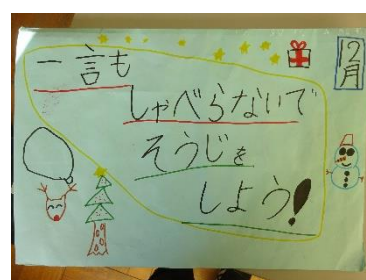
1 はじめに

例年では、前年度に代表委員会が学校スローガンを決定していたが、今年度はコロナ禍の影響もあって、運営委員会で委員会始めに学校スローガンを話し合い、決定した。今年度は、各委員会で「元気よくチャレンジする」のスローガンのもと、様々なチャレンジを行い、学校の活性化を図るようにした。

2 資料（実践事例、写真等）

(1) 大沼チャレンジカードの実施（運営委員会の活動）

今年度は集会活動が制限されることが懸念され、例年、その計画や進行等の役割を担ってきた運営委員会の代替活動として、大沼チャレンジを実施した。昨年度の「週のめあて」をもとに、運営委員会でその月のチャレンジ内容を考えた。そして、週に2回朝の時間に、そのチャレンジの呼びかけを行った。月末には全校児童が、その月のチャレンジ内容を、「大沼チャレンジカード」に振り返り記入した。さらに、その振り返り内容を運営委員会児童が選定して、優秀児童の表彰を行った。目標に向かって頑張る児童の育成、そして、その頑張りを表彰で認め合うことで自己肯定感の向上を目指した。



大沼チャレンジ呼びかけ用紙

(2) チャレンジの木の実施（掲示委員会・運営委員会・放送委員会の活動）

「大沼チャレンジカード」との連携企画も実施した。11月はチャレンジ強化月間として、各学級でチャレンジ内容を話し合い決定して、そのチャレンジの実践のためにできることを、1人1人が用紙となる葉に書き込み、「チャレンジの木」を作成した。1ヶ月の実践の活動報告を放送委員会が収録して、給食の時間にその放送を行った。「大沼チャレンジカード」が個人の目標を大切にする企画であるのに対して、こちらは集団で目標決定を行い、実践する内容にした。また、コロナ禍で様々な交流が制限される中で、放送での実践報告を聞くことで、他学年の頑張りを知り、自分たちの生活に張り合いをもたせるねらいがあった。掲示委員会には、「チャレンジの木」の作成を以来して、複数の委員会が連携して、実践を進めるようにした。



チャレンジの木

(3) 大沼大好きクイズラリーの実施（運営委員会の活動）

10月には例年、地域の方を招いて大規模な創立記念集会を実施していた。今年度は集会活動が取り止めになったため、児童の愛校心が育める活動として、クイズラリーを実施した。グラウンドの各場所に運営委員会児童が作成した学校に関するクイズを掲示して、中休みなどに児童が解答用紙をもってクイズラリーを行った。「大沼小は創立何年でしょう」など、

実際に調べてみないと分からない問題もあり,学校への関心を高める内容にすることができた。

(4) オプリカ～みんなで手を洗おうの歌～(保健委員会の活動)

手洗いの徹底が図られる中,保健委員会では手洗い推進の歌を考えて,全校児童に紹介した。委員会児童で話し合い,曲のベースや歌詞を考えた。そして,パーティション設置のもと,委員会児童歌唱により歌の収録を行った。収録したものは,給食の時間に放送し,全校児童に周知を図った。また,朝の時間には,各学級で保健委員児童が,手洗いの指導を行った。歌に合わせて楽しく手洗い・うがいを行うねらいのもと,実践を進めることができた。



オプリカ歌詞カード

3 成果と課題

(3) 成果について

- ・コロナ禍の状況を鑑み,集会活動に頼らず日常的な活動から,特別活動の「人間関係育成」「自己実現」といった目的の達成に努めた。また,日常的な活動は,枠組みが整えば,大きな準備は必要なく,業務の改善にもなった。教員の働き方にもよい作用があり,コロナ禍をプラスに捉えた活動の転換を進めることができた。
- ・全学年でアンケートをとると,「目標に向けて頑張っているか」の問に「頑張っている」と回答した児童は 91.5%であった。全校児童の大半の児童が,目標をもっていきいきと生活していることが分かった。週の2回の大沼チャレンジの周知を運営委員会児童が行ったり,学級会でクラスの「チャレンジの木」の作成をしたりして,目標が身近にある学校生活を根付かせることができた。
- ・3学年では,運営委員会児童が賞状を渡す様子から,「自分たちも係活動で同じようなことをやってみよう」と活動を改善する動きがあった。宿題を丁寧に行っている児童を,独自に表彰することができた。自己肯定感を高めるねらいもあり,その文化が様々な学年で継承することができた。
- ・保健委員会で「せっけんを使った手洗いができていますか」とアンケートをとると,91.7%の児童が「できている」と回答した。委員会児童による手洗い指導を継続して行ったり,各学級での石けん補充の仕事の際にも,「手洗いしていますか?」と呼びかけたりする様子が見られた。一度きりの手洗い指導にらずに,年間を通して継続した活動になっているところが,意識の向上につながっていたようである。

(4) 課題について

- ・例年,集会として行っていた「一年生を迎える会」が今年度は代替行事もなく,実施することができなかった。一年生のスムーズな小学校生活への移行のために,放送や小グループでの実施を行うべきであった。